



北カリフォルニア日本合唱連盟

連盟だより

<http://jcfnc.org>

2010年3月31日発行 Vol.5



2010年2月14日 AUMCにて

いよいよ日米合唱祭

北カリフォルニア日本合唱連盟
会長 賀川正人

来る4月9日はいよいよ第43回桜祭り主催日米合唱祭です。皆さんのお呼びしたい方々のお手元にはチケットはわたっていますか。今一度ご確認ください。合唱連盟の結成されるきっかけとなったアラウンドシンガーズから約5年経過し、この度桜祭り実行委員会の主催で、5年前と同じホールにてこのような大きな演奏会に連盟として参加できることが適い感無量です。

日本からは外山先生がご指導になっておられる小田原男声合唱団、葛飾区民合唱団、世田谷区民合唱団、板橋混声合唱団、外山先生の奥様が主催される千代田レディース・アンサンブルの皆様と同団体の指揮をされる太田直樹先生、約45名がおいでになります。また、南カリフォルニアからは本連盟と関係の深い南カリフォルニア日系合唱連盟から45名余りの皆様が賛助出演としておいでいただくことになっております。

本連盟では、昨年4月の外山浩爾先生の講演会を皮切りに、昨年7月には、丁度日本に滞在されていた技術部の平野先生にご一緒いただき小田原男声合唱団への表敬訪問、外山先生との打ち合わせを行いました。8月～9月にかけ技術部の先生方により選曲を行っていただき、9月末の親睦コンサートの余韻も覚めやらないうちに第1回目の合同練習を行いました。合同練習は技術部各先生方の多大なご尽力により持ち回りでご指導いただき、場所を変

えながら約1ヶ月に1回、10、11、1、2、3、4月の6回行い、さらに4月8日には7回目として外山先生による前日リハーサルを行うことになっております。各リハーサルでは、それぞれ毎回平均50人の皆さんにご参加いただきました。

今回の演奏会では、本連盟のみによる単独ステージが企画されており、待ちぼうけ、America The Beautiful、故郷の3曲を演奏します。先生方も、合同練習ではこの3曲の練習には特に力が入り丁寧かつ厳しいご指導をいただくことができました。各団体に戻られた後もそれぞれ時間を掛けて練習をされたと同っています。演奏会当日には練習の成果を発揮し良い演奏が出来るものと思います。最終ステージは日本、南加の皆様が一同に歌う約150人による合同演奏です。迫力のある演奏をお客様にお聞かせできるものと思います。最後になりますが、本イベントの主催者である桜祭り実行委員会様には、チケットの作成や販売等をはじめ多大なご援助をいただきましたことを深く感謝いたします。

合唱連盟練習風景

1月10日
サンマテオライブラリーにて
～息を吐きながら
響きを感じながら～
“ぶるるる～……”



2月14日
アルダースゲートUMC
おへそみぞおちラインを
支えて…



サンマテオ
ライブラリーにて



3月14日
声量でバランスするように。

ボードミーティング



練習後のミーティング
時には和やかに
時には厳しく
準備にも力が入ります。



今後の予定です。

■練習予定

- ♪4月4日(日) 午後2時～4時
Pine United Methodist Church, San Francisco
426 33rd Ave., SF
- ♪4月8日(木) 午後7時～約2時間
College of San Mateo
Choral Room (Building 2, Room 110)
1700 W. Hillsdale Blvd. San Mateo, CA 94402

■当日リハーサル

- ♪4月9日(金) ハーブストシアターにて
日本 : ~午後4時30分
日米合同: 午後4時30分～5時30分
US合同: 午後5時30分～6時30分

日米合唱祭 US-Japan (Nichibeï) Choral Festival

Friday, April 9th, 2010, 8:00 pm

Doors open at 7:30 pm

War Memorial, Herbst Theatre
401 Van Ness Ave, SF, CA 94102

■参加予定合唱団:

日本から

Odawara Male Chorus/小田原男声合唱団
Katsushika-Kumin Chorus/葛飾区民合唱団
Setagaya-Kumin Chorus/世田谷区民合唱団
Chiyoda Ladies Ensemble
/千代田レディース・アンサンブル
Itabashi-Ku Mixed Chorus/板橋混声合唱団

Nikkei Choral Federation of Southern California

Los Angeles Men's Glee Club
/ロサンゼルスグリークラブ
Cosmos/コスモス
Sakura Chorus/さくらコーラス
Capelle Opus/カペラオーパス

Jananese Choral Federation of Northern California

Choral Cosmo/コーラルコスモ
Chorale May/コーラルメイ
Ensemble Shiki/アンサンブル四季
Harmony '84/ハーモニー '84
San Francisco Forest Choir
/サンフランシスコフォレストクワイア

■プログラム

♪ステージⅠ 小田原男声合唱団

指揮:外山浩爾 ピアノ:森本加奈

男声合唱曲集「ほほえみ」(作曲:鈴木憲夫)

1. ふるさとの木の葉の駅(作詞:坂村真民)
2. 憧れ(作詞:作者不詳)
3. 朝に(作詞:立原道造)
4. ひとひらの花びら(作詞:鈴木憲夫)
5. めぐりあいの中に(作詞:鈴木憲夫)
6. ほほえみ(作詞:小田切清光)

♪ステージⅡ 千代田レディース・アンサンブル

指揮:太田直樹 ピアノ:森本加奈

7. 歌えバンバン(作詞:阪田寛夫、作曲:山本直純)
8. 母さんの歌(作詞・作曲:窪田聡)
9. うさぎ(わらべ歌)
10. かごめ(わらべ歌)
11. 大すき(作詞:小泉周二、作曲:山本健司)
12. Believe(作詞・作曲:杉本竜一、編曲:河西保郎)
13. 気球に乗ってどこまでも
(作詞:東龍男)、作曲:平吉毅州)

♪ステージⅢ 小田原男声合唱団

指揮:外山浩爾

小田原男声合唱団愛唱歌集 2010 より

14. からたちの花(作詞:北原白秋、作曲:山田耕筰)
15. 大島節(伊豆大島民謡、編曲:福永陽一郎)
16. ソーラン節(北海道民謡、編曲:清水修)
17. 最上川舟歌(山形民謡、編曲:清水修)
18. 5つのオアハケーニャによる憧憬より

ミステフ族の歌/Canción Mixteca

(編曲:信長貴富)

... ❁ 休憩 ❁ ...

♪ステージⅣ 日本混声

指揮:外山浩爾 ピアノ:森本加奈

19. 混声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」*
(詩:北原白秋童謡詩歌集「赤い鳥小鳥」より 12 篇
編曲:信長貴富)

♪ステージⅤ 北カリフォルニア日本合唱連盟混声

指揮:外山浩爾 ピアノ:田山由美

20. 待ちぼうけ
(作詞:北原白秋作曲:山田耕筰、編曲:増田順平)
21. ふるさと 故郷の四季(混声版)より
(作詞:高野辰之、作曲:岡野貞一、編曲:源田俊一郎)
22. America The Beautiful (作詞:Katherine L. Bates、作曲:Samuel A. Ward、編曲:Kirby Shaw)

♪ステージⅥ 日米合同混声

指揮:外山浩爾 ピアノ:森本加奈

23. 君うたえよ
混声合唱とピアノのための「新しい歌」より
(作詞:谷川俊太郎、作曲:信長貴富)
24. 鳥が 川崎洋の詩による五つの混声合唱曲
『やさしい魚』より(作詞:川崎洋、作曲:新実徳英)
25. 夕焼小焼 唱歌の四季(新訂版)より
(作詞:中村雨紅、作曲:草川信、編曲:三善晃編曲)

* プログラム 19 の詳細 ()は作曲者
混声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」
第1章 小さないのち

摇篮のうた(草川信)・栗鼠、栗鼠、小栗鼠(成田為三)
兎の電報(佐々木すぐる)・たあんき、ぼうんき(中山晋平)
ちんちん千鳥(近衛秀麿)・赤い鳥小鳥(成田為三)

第2章 子供の村

すかんぼの咲くころ(山田耕筰)・アメフリ(中山晋平)
かえろかえろと(山田耕筰)・砂山(中山晋平)

第3章 いつか来た道

この道(山田耕筰)・摇篮のうた(草川信)



ハーブスタシアターにて

サクラメントより

さくらコーラスコンサート便り

『6月20日の定期コンサートに向けて』

榊原晴子

サクラメントのダウンタウンには戦前たくさん日本人が住んでいて日本町が栄えていたのですが、当時の日系一世や二世が他界された後、この町では日本文化の存在が少しずつ見えなくなって来ています。ベイエリアのように最近日本から来た方たちが定住しているケースもずっと少ないので、さくら祭りのような大きな行事を盛り上げるような日本関係のエネルギーは、ありません。その中で、諸教会のフードバザーの他にはこれといった「日本文化」を継承する継続的なコミュニティのための行事がないのが実情です。最近では日米、北米の二つの新聞の配達が無くなり、ベイエリアからの日本関係情報も減ってしまったのは、とても残念なことです。その中で私達の日本語の歌の活動は、「日本文化」を継承する大切な役割を担っていると思います。

さくらコーラスは元々は1992年から活動を始めたグループが母体ですが、定期的なコンサートを「さくらコーラス」という名称で始めたのは2006年のことでした。今年で第三回になるこの隔年のコンサートを心待ちにしておられる方々が三百人ぐらいます。コンサート後のコメントシートを読むと、「50年ぶりに聞いた歌に涙が出た」とか「日系収容所で母に教えてもらった日本語の歌を聞いて嬉しかった」等私達の思いを超えて、日本語の歌が様々な形で人々の心を打つ事がわかります。日本語のわからないご主人にも楽しめるようにアメリカ人も知っている曲を日本語で歌ってほしい、出身地にちなんだ歌を入れてほしい等のリクエストもあります。それで、第二回のコンサートの時には埴生の宿、芭蕉布、アロハオエといった曲目を入れました。練習は毎月隔週なので、大きなコンサートはみな心を

一つにして準備をしていかなければなりません。今回も曲目には日系の方たちが子供時代を懐かしめる歌、若い人達に聞いてほしい歌も含めて、童謡、唱歌、古い歌、新しい歌の中から色々選んでみました。合唱連盟のコンサートに参加させて頂いた時にも他のグループからとてもよい刺激を頂きました。練習は、いつもとても楽しく、ご高齢の方達は、「この活動が生き甲斐」と言って下さいます。メンバーの方たちにも色々歌にまつわる思い出があります。しみじみと味わいのある言葉の美しさに出会って感動したり、忘れていたような日本語にうなったり、愉快的な表現には大笑いしたりということもあります。それぞれの生活経験から歌の解釈を試みる時には思いがけない学びもあります。アメリカという多文化社会の中に生きて来た私達が、心の奥にある「日本人であることの幸せ」をしみじみと共に感じることでできる瞬間です。そんな交わりを私達は皆、とても大切にしています。練習の後には、いつも何か手作りや日本みやげなどのGoodiesが出て来るのも魅力の一つでしょう。



今は新しい練習予定が配布され、みな6月20日のコンサートに向けて張り切っています。

先日は思いがけなくベイエリアより賀川さんが2月の小コンサートにいらっや下さり、一同大変びっくりしたのですが、サクラメント見物がてらにお



子さんといらっや下さったのだそうです。みなさまもお時間があれば、どうぞコンサートにおでかけ下さい。

さくら祭りでの合唱のご成功をお祈りしております。

「音楽の力は偉大だ」

ロサンゼルス・メンズグリークラブ 土田三郎

友人のYさんが急遽日本に帰国した。日本にいる長年の友が危篤状態の中でYさんの名前がうわ言のように聞こえるので、奥さんが何かあるのではないかと不安になり、ロサンゼルスのYさんに電話してきたという。Yさんは、急遽仕事を中止して機上の人となり、友が横たわる病院に急行した。到着した病院では、未だ危篤状態が続く友がベッドにいた。奥さんの説明では、危篤状態が続いている中で、なにか歌みたいなきが微かに出てきて、その時にYさんの名前も聞こえて来たという。

昔Yさんは、その友とよくカラオケで遊んだ仲間である。自分でも彼と歌った懐かしい歌がいくつかある。ハツ、と思ったYさんは、彼と歌った歌を彼の手を握りながら静かに歌った。そうすると、危篤で無意識のはずの友の頭が少し動き、顔の表情が少し変わってきた。声は出ないけれど、懐かしい歌と一緒に歌うように口元も動き始めた。そしてナント、危篤の友の目から涙が流れてきたではないか。

側にいた奥さんもビックリした。きっとその友は、Yさんの聞き覚えのある歌声から、潜在意識を呼び戻していたのであろう。残念ながらその友は、二日後に他界された。Yさんの歌声と共に！

危篤状態の中でも潜在意識の中にある音楽は、人の心を動かすようだ。音楽療法士によると、音楽は何度も歌ったり聴いたりしている間に、人の心の奥深くにある潜在意識の中に入り、人の心を育くむという。だから、美しい音楽を聴いていると心が平穏になる。生命の尊厳さえ抱く。音楽の力は偉大だ。

日米合唱祭に参加される、ロサンゼルスメンズグリークラブの土田さんよりのご寄稿です。

✦ ロサンゼルスメンズグリークラブ ✦

1999年7月に創立し、今年10周年を迎える男声合唱団。地域貢献を目的に掲げ、定期演奏会を始めとして年間5、6回の演奏活動を公共施設で行っている。

モットーは「Harmony is everything」。

Practice: Every Monday 7:30 pm – 10:00 pm

(<http://www.laglee.org/> より抜粋)

神話・民話「桃太郎」追加考証と 「浦島太郎」への一考

Chorale May/Ensemble Shiki 菅野琢雄

今日は皆さんを浦島太郎と竜宮の民話にお誘いします。

其の前に、前回民話の桃太郎と雉猿犬の鬼退治の話は実話だと書きましたが、もう少し説明を加えると、なぜ私が桃太郎の鬼は蝦夷の人々だったと思うかがお分かり頂けると思います。

前回蝦夷と呼ばれる東北地方の部族達の政府への抵抗の話を書きましたが、この辺りを制定する使命を受けた坂上田村麻呂は福島県の入水鍾乳洞の近くの達谷の巖(たつたにのいわや)を使って抵抗した蝦夷部族との激しい戦いのあとで毘沙門天をその巖に祭ったといえますから、いかに東北の洞窟を城として戦った蝦夷達の抵抗が強烈であり、坂上田村麻呂がもう二度とこの様な激しい戦争を蝦夷の人達ができない様、武神である毘沙門天の力に縋って東北人達の呪文の強さから守ってもらおうとした気持ちが伝わってきます。毘沙門天を祭るという事は、既にこの頃の知識人や政府の役人達は密教の毘沙門天の力を信心するまでになっていた、密教がこの頃までには紹介されていたということが分かります。密教の坊さんが激しく燃える火の前で呪文による祈禱をしているところを映画等でご覧になった方が居られると思います。縄文人達の呪文の強さは政府に雇われ兵士達には

恐怖の的であったのです。“AN EYE FOR AN EYE”ではありませんが、降りかかる呪文の力に呪文を投げ返して立とうというのですから、縄文から弥生へと移行し古墳時代に入った支配者の雇い戦士を勇気付ける知恵でもありました。巫女を部隊の最前線において戦



縄文土器の仮面

ったのも、巫女の呪文の御利益を信じたからです。何しろ言葉には魂があり、不思議な力があることを当時の人々は信じていました。蝦夷平定への努力は日本書紀の中で西暦 581 年の備前 10 年に最初の蝦夷反乱の記録が出ており、其の中で政府は数年前景行天皇の時に多くの酋長達を殺し、許すものは許したが、今回も反乱を続けるのであれば、皆殺しにするぞという意味の詔(みことのみこと)を当時の首領、魁帥(ひとごのかみ)に届けており、蝦夷の酋長は天地天命にかけて忠誠をつくすと盟誓したとあります。注目に値する点は、この盟誓に二つの段階が「日本書紀」神代 9 段第二条に書かれていることです。一つは幽事(かくれたるごと)という表現で、蝦夷が政府に忠誠を尽くすことは神妙に政府の神様が見ている前です。訳ですから、その前にまず自分の古くからの神様のお許しが必要だったのです。それが幽事という言葉で記録されています。征服者の神と原住民の神が違っていたことが分かります。西暦 637 年に又もや蝦夷が反乱を起し、將軍上毛野形名(かみつげのかたな)が蝦夷平定に派遣されていますし、記録によると、日本書紀には、西暦 799 年に蝦夷の言葉「夷語」に通じた農民がいい加減な話を広めて、当時既に恭順を誓った蝦夷(蝦俘えふ)達の心を動揺させた等と書いてあるそうですので、政府の蝦夷への問題は少なくとも 200 年位続いたようですし、征服者の言葉が原住民の言葉と違っていた可能性もこの記録から判断できます。通訳が広めた嘘が基で蝦夷と政府の間で問題が起きたと書きましたが、こんな話がありました。戦前私の秋田の甥が修学旅行で京都に行きました。たまたま九州から来た学生たちが同じ宿に泊まっていて、何かの弾みで大喧嘩になりそうなところでしたが、両方ともあまりにも興奮していたため標準語で喧嘩ができず、お国なまりが飛び交ってお互いに全然意味がわからず、最後はみな大笑いで仲を取り戻したそうです。言葉とは大切なものですね。話を戻すと、政府が通訳を必要としたのは方言と標準語の違いの為だったかもしれません。或いは日本標準語がまだ行き渡っていない時代でもあったのでしょう。

でも其の数年後に纏められた万葉集には、農民や防人や娼婦達の歌も採ばれていて皆立派な全然漢字音読みのない、大和言葉で書かれていますから、もうこの頃から大和言葉はかなり原住民の言葉の上に、多少変化してもう一つのレーヤーとして定着して来たことが想像できます。

蝦夷の兵士達は洞窟やトンネル網だけでなく、山の頂上からの狼煙等で充分連絡を密にし、政府軍を急襲し、またサッと山の中に消えてしまうという、ロビンフッドを頭としたイギリスの盗賊グループやアメリカでは有名なジェロニモのような戦い方で、政府軍の兵士を脅かしました。ずっと後になって平泉を平定した源頼朝もこの辺りの洞窟にかなりの関心を抱いていたようで、「吾妻鏡」に“その岩窟の前途は、北に至るまで十余日、外が浜に隣(とな)るなり”と書いているそうです。福島県辺りの洞窟が北は津軽半島の「外が浜」と繋がっているという書き方です。全部がトンネルではなかったと思われませんが、連絡網としてなんと 200 キロ以上の道であったことになりそうです。酋長の名前がはっきりしていない部族のリーダーを政府は邪神(あしきかみ)とか姦鬼(かだましきおに)とか荒神(あらぶるかみ)などと呼んでいるのを見ても政府が如何に彼らを恐れていたかが分かります。でも邪神にせよ、荒神にしても、政府が一応この蝦夷の人々を神扱いをしているのも面白いと思います。神も色々な形での神が存在できたわけです。この辺は縄文的な世界だと思います。かだましきという言葉は字でも分かるように“うるさい”“喧しい”といった意味ですから、かだましき呪文を叫び続ける鬼大将という感じでしょうか。私の心の中で東北に繋がる延々と長い洞窟と姦鬼(かだましきおに)が鬼が島の鬼と洞窟に結びつきます。

さて蝦夷物語はこの辺にして、今日は皆さんを浦島の龍宮城にご案内しましょう。皆さんはハワイのオアフ島の沖合深さ 105 メートルの箇所大陸棚があるのをご存知ですか？ 大陸棚というのは、昔の海面の波が作り出した海岸線の平らになっている部分のことをいいますが、昔は海面がこの辺りでは 100 メートル以上

低かったことを物語っているわけです。これは太平洋の真ん中だけに起こった現象ではなく、世界中に起こった海面変化の一例に過ぎません。逆の言い方をすれば、いまから1万5、6千年前の陸地は今よりもっと大きかったのです。皆さんもご存知の様に、1万2千年ほど前から地球温暖化が始まり、地球上を覆っていた氷河が後退し始めて、溶解した水が海に流れ込んだのがこの海面上昇の異変を齎しました。例えばその頃には瀬戸内海は陸地で、九州・四国は今の山口県や広島と陸続きでした。世界中の沢山の島々の中には大陸に繋がっていたものが無数にあるのです。沖縄諸島の中に慶良間島という島があります。もうかなり前になりますが、この島の付近海底25-30メートル辺りのところで巨石の構築物が発見されました。もう少し台湾に近い与那国島にもこの巨石構築物が見つかっています。海底構築物を世界中旅をして研究しているグラハム・ハンコックの本『神々の世界』の中で、これ等の巨石に囚われて研究に没頭されている学者の一人琉球大学の名誉教授木村政昭教授との対談を載せています。その中で、教授自ら行った炭素年代測定ではこれ等の岩に付着している海草などの有機物の古さは6000年とい



新高喜八郎氏の海底遺跡写真集より

う数字が出ている。よってこの構築物がそれ以前に未だこの辺りが陸地であった頃に構築された想定できる。いま色々研究中だが、9000年から1万年前に構築された可能性も有りうるという教授の話を載せています。これが正しいとなると、ピラミッドより古い時代の世界最古の巨石構築物ということになります。木村教授は最近では炭素年代測定がもっと新しい珊瑚礁に覆われて

いる遺跡群も見つかり、これ等の構築物の中には弥生時代初期か中期の城跡とも考えられると仰っています。海洋考古学者スダレシュの研究報告には与那国の構築物は250メートルに及ぶテラス構造と運河であると結論しています。これからも多くのダイビングがなされ次々とこの地方の構築物の謎が解けてくるでしょう。これ等らの構築物の付近で土器や祭器などが見つかっていますので、この辺りが少なくとも長い前歴史時代に渡ってこの遺跡が何らかの形で当時の人々に使われていたと考えても間違いではないようです。海面上昇は1万年以上続いて今日に至っているわけですから昔陸続きであったこの島々の辺り、黄海、東シナ海、対馬海峡を跨いで勇壮に活動していた人々の姿が目に見えられます。中国の隋王朝の記録(581-618年)が残した隋書には現在の台湾は流求諸島の一部と記されているそうです。古中国語でルーキュウと呼ばれたこの地方が随書で流求と呼ばれ、現在の琉球諸島になったことは想像に難くないのです。浦島物語では、あるときは浦島は海底の龍宮城まで旅をしたと語られ、或る物語では彼は海上の島を訪れたと語られています。古事記では「目が堅く詰った竹箆の小船」で海上を旅したと語られ、日本書紀では山幸彦は水の漏らない箆に乗り海底まで旅をしたことになっています。これは私の憶測の次元での発言ですが、この二つの話は共に真実を語っている可能性があると思います。前者はこれ等の海底建造物がいまだ海上にあった時の縄文人の思い出物語、そして後に海底に隠れてしまった不思議な国の物語でもあった可能性があります。この構築物は人工の手に掛かったものでなく、自然が構築したものと断言する地質学者も2、3いますが、お互いに全てが自然であるとか、全てが人の手で創られたという頑なな解釈を主張せず、自然に作られた霊が漂っていたこの岩場に人間が手を入れ、聖地だとか船着場として利用したとなんで解釈しないのか不思議です。埋葬に使われたらしい祭具などもかなり年代は若いのですが発見されていますので、人が何がしかの理由でこれ等の巨石を舞台に雄大なドラマを繰り広げた

ことは疑問の余地がありません。別の解釈をすれば、浦島の物語は縄文人の語った黄泉の国と幻の島の現実と幻想の中に語られた物語でもある可能性もあるでしょう。これらの遺跡が研究されて、この先も日本史・世界史はどんどん書き改められるでしょう。

浦島の御伽噺では浦島は龍宮で楽しい生活の後に生れ故郷に戻ってきたら、300年の月日が経っていたと語っています。浦島の話は、長寿の御伽噺でもあったわけです。この世の何処かに長寿が可能な世界があると信じていた人々が作り上げた話とも言えます。長生きをしたいという願いは世界の人々の共通の願いであったようです。中国では紀元前三世紀ごろ養生(ようじょう)術・錬金術・巫術(ふじゅつ)等夫々独立した起源をもつ要素が混合されて神仙説という道教と結ばれた思想がはやり、其中で渤海に浮かんでいるという不思議な三神島の話が出てきます。この島の宮殿は金銀でつくられていて眩いばかりで、仙人が住み不死の薬があると伝承され、この島の話は一度この島に流れ着いたものがいて、そのものが持ち帰った話である。この話を聞いた多くの人々がこの島に行こうと努力したのだが、霧の濃いこの地方で、島が水面下に見えたり、近づく度に強風がおこり、舟は後方に流されてついに辿り着いたものはいなかったというおちが付いています。海の向こうの宝島への郷愁は世界共通のようですが、この話に出てくる三神島は大きな目で地図を眺めていると先ほどご紹介した与那国や慶良間島とそんなに遠くはありません。このあたりは海面上昇前は沢山の島々が陸続きでしたから、縄文時代の人々にとってはこの渤海が今私達が瀬戸内海を見る感じの海だったと想像されます。人間が大洋を漕ぎ渡った歴史は我々が中学校・高校で習ったものより遥かに古いものようです。

縄文人の日本国土への渡来は西暦1万4千年前という説があります。その後四回に亘って四つの民族が日本に辿り着いているようです。原縄文人の日本定着前にも色々な人種が日本に住んだり、通り越して旅を続けました。日本人は神の子孫として2千年純潔を

保って来た我々の年代の人々は教えられてきました。ところが、事実は大分違っているようです。この尊い天皇家を支える神話もひょっとしたらギリシャあたりが起源で、其の神話の上に南洋の島々や大陸の神話が重なってできたのが今の日本の神話に落ち着きました。天皇はギリシャの神話に出てくる神様のように不死ではなかったので、色々な工夫が加えられて日本の神話になりました。この話は又の機会にしましょう。

余談になりますが、この原稿を書いている今日は二月の中旬です。段々と日が長くなってきているのが書齋に入ってくる日の光りの角度で分かります。ご存知のように、季節の変化は地球の軸が黄道面に現在23.4度傾いて太陽を回り続けているからです。太陽光線が地球を暖めている時間がこの軌道の傾きのためにある所では殆ど直角にあたり、ある場所では斜めの光線で地球に届く為、太陽が地球を暖める時間も能率度も変化するからなんです。ところで、地球の歴史を観察して、実はこの軸がなんと21.5度から24.5度の間を振れていることが分かっています。また地球の太陽と回る軌道にしても約9万2千年の周期で軌道が円に近付いたり一番びつな楕円形になったりしていることが分かっています。歳差、即ち地球が太陽を一回りする時間も2万1千年の周期で変わっています。また過去360万年の間に北極と南極の磁気が九回もひっくり返ったことがあるのだそうです。一番最近この極がひっくり返ったのは70万年前だそうで、今地球温暖化が騒がれるわけですが、実は地球周期の観点から地球の将来を見る時、地球はいまや氷河期へ向かいつつあるのです。



2009年4月18日、外山先生とのひとコマ



2009年6月30日。
賀川さん、平野さんが小田原男声合唱団の練習会場を訪問いたしました。
4月9日には一緒に歌う方々です。ズームインして、今からお顔見知りになっておきましょう。

関連団体 コンサート案内

♪Harmony '84 第26回定期演奏会

2010年5月8日(土) 午後7時
Aldersgate United Methodist Church, Palo Alto
4243 Manuela Ave., Palo Alto, CA 94306

♪SFFC、Chorale May、アンサンブル四季 定期演奏会

2010年5月23日(日) 午後2時
Pine United Methodist Church, San Francisco
426 33rd Ave., SF

♪第三回さくらコーラス定期コンサート

2010年6月20日(日) 午後12時半～2時10分
場所: サクラメント合同メソジスト教会
Sacramento Japanese United Methodist Church
6929 Franklin Blvd. Sacramento CA 95823

♪ロマンティック・クラシック・コンサート

コーラルコスモのハミルトンさんが出演されます
2010年7月11日(日) 午後2時
ザ・フェニックスホール(ニッセイ同和損保フェニックスタワー内) 大阪市北区西天満 4-15-10
前売りシングル 3500円 ペア 6000円
当日シングルのみ 4500円 全席自由席・税込
お問い合わせ: TEL. 078-202-1144 (芦谷さん)



—◇ 編集後記 ◇—

菜の花や、ミモザの花が一斉に咲き、♪召しませミモザは恋の花(ミモザの花言葉は“感じやすい心”)・・・、♪ララ トンボが飛んでる野原の真ん中で陽気に踊りましょよ(ちょうちょうにもまだ早いなあ)・・・、と、穴から飛び出すリス(うさぎかしら?)のようにスキップした日もあった2月中旬。

花の香りに誘われて、“～東風吹かばにほひ起こせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ～” 鶯の姿はあれど声はなく、梅の花を探して回り道した2月下旬(これは日本での話)。そしていよいよ、“あなたにほほ笑む”山桜花の季節がやって来た。りんごの花も、待ってました、と一房顔を出した。菜の花やマスタードグラスはますます黄色鮮やかに春風に揺れている。

そんな春の日の出来事。秘密にしておきたいけれど秘密にしておけない・・・今は春・・・。ある古いテレビ番組でタキシード東京マイスタージンガーに出会ってしまったっ！♪～出て来る出て来る大好きな歌、出て来る出て来る素敵な歌、出て来る出て来る愉快な歌・・・。子供の頃♪それにスーちゃん・・・(これは東京放送児童合唱団)』と声を裏返して一緒に歌い、新しい童謡・世界の民謡などたくさんを体中で覚えた。タゴはんよりも歌、という子供を育ててくれた『歌のメリーゴーラウンド』の東京マイスタージンガーのお兄さんたちだ。4月9日には生東京マイスタージンガーのお兄さんの指揮で歌うのだ。とても高い存在だった外山先生が、恐れ多くもなんだか身近な方のように感じてしまった。

♪進路西にまっしぐら・・・、♪さあ太陽を呼んで来い・・・。21世紀に何が起こるか、って空想に耽っていた子供の心に響いた歌は21世紀の今でも大好きだ。

八木妙子



2009年の桜

..... * ... * ... *

次号は5月初旬発行の予定です。
連盟だより 第5号 発行人 賀川正人